

山口小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

主体的・対話的で深い学びの実現と確かな学力を育成する

校長

学力向上推進員

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観、校内研修での報告等、様々な機会を捉え、取組状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○基礎的・基本的な知識を得ようと、こつこつと努力することができる。 ●「書く」技能の個人差が大きく、特に視写に時間のかかる児童がいる。 ●文章に書かれている内容を正しく読み取れない児童がいる。	・当該学年までの基礎的・基本的な知識が確実に身につけている。 ・語句をまとまりでとらえ、文章を書き写したり、活用したりすることができる。 ・問題文の内容を正しく読み取ることができる。	・チャレンジタイム(スキル学習)の中で、当該学年や前学年までの学習をする時間を設ける。 ・新聞等を活用し、定期的に視写したり、要約したりする。 ・教材文や問題文に線を引きながら読む習慣をつけるための授業改善を行う。 ・ICTを活用した教育を推進し、児童にとってわかりやすい授業づくりを進める。	・語句をまとまりでとらえ、速く正確に文章を書き写すことができる事に加えて、自分の思ったこと考えたことなどを書く技能の習得もめざす。	・チャレンジタイムを有効活用できなかった学年が多い。 ・視写や新聞の要約の時間が確保できなかった。なぞり書きプリントや課題を与えての音読が効果的だった。「書くこと」に苦手意識がある児童に対して、板書を写真で撮っておいたり、ワークシートを活用して書く量を減らしたりする手立てを行った。 ・ICT(オクリンクプラスやインターネット、ドリルパーク)を活用し、児童にとって分かりやすい授業や反復練習ができ	・「基礎的・基本的な知識」や「発達段階にふさわしい言葉」とは具体的にどういふことなのか、共通理解を図り、足並みをそろえて学習にあたる必要がある。 ・朝の活動の時間を見直し、児童の学力向上につながる内容を設定し、継続的に行う。 ・放送の言葉を間違ったときには、きちんと訂正するなど、生活の中でも、言葉を正しく使っていくことを意識させる。

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○自分の思いを表現することに前向きである。 ●語彙力、文章構成力が弱く、自分の伝えたいことを十分に伝えられない。 ●他者の意見を取り入れて話し合う力が十分とは言えない。	・どのような場面でも、他者の意見を取り入れながら対話的に考え、自分の意見をすすんで話すことができる。 ・発達段階にふさわしい言葉を知り、思考・判断・表現する際に、知っている言葉を適切に使うことができる。 ・自分の思いや考え、感想等を正しい文章で豊かに表現できる。	・対話的な学習を各単元の中に計画的に設定した授業づくりを行う。チャレンジタイム(スキル学習)の中で、他者との対話の時間を作り、自分の考えを伝える場を設定する。 ・子ども新聞の活用、「言葉の宝箱」で短文作り、作文・俳句作り・日記指導、国語辞典を使うなどの学習機会に積極的に活用する。 ・授業の振り返りや作文・日記指導の際に「書く→推敲する」習慣をつけさせる。	・推敲することがまだ難しく、引き続き習慣をつけていく必要がある。	・発言しやすいという少人数のよさがある。しかし、自信のなさやコミュニケーション力の低さなどから、自分の考えを伝えることが苦手な児童がいる。 ・低学年から、発表の仕方や「わけは～」と理由を述べる話形を身につけさせることができた。 ・俳句作りや日記指導を学校全体で行った。特に俳句は、実際に体験したことや感じたことを基に進んで作ることができた。	・教科だけでなく、特活(話し合い活動)などの学習を活用して、話し合う方法や話し合い方を身につける必要がある。 ・「言葉の宝箱」を一人一人すぐ確認できるよう手元に準備しておき、常時語彙を増やせるようにする。話形も継続して指導していく。 ・自分の考えをノートに書いてから発表する機会をつくる。その際、思考ツールなどを活用し、考えを整理できるようにする。 ・教科書の例文や教師の例などを「読む、まねする」ようにし、よいモデルを示す。

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
○与えられた課題には真面目に取り組む、最後までやりきろうとする。 ○知的好奇心が旺盛な一面がある。 ●「なぜ」「どうして」「もっと知りたい」などの気持ちを持っても表現できず、学習態度が受け身である。 ●集中が続かず、教師や友達の話を最後まで主体的に聞くことの難しい児童がいる。	・見通しをもって意欲的に学習に向かい、探究的な姿勢で課題を解決しようとする。 ・教師や友達の話を、自分の考えや思い等と比べながらよく考えて聞くことができる。	・児童の学習意欲や探究心が高まる授業について研究を深める。 ・学習課題の提示と単元のゴールを明確にし、振り返りと見通しを一体化させた授業を行う。 ・児童が考えながら集中して話を聞くことができるようルールを決め、指導者自身も話の伝え方を工夫する。 ・激しく変化する社会を生き抜くことのできる資質能力を育成するため、ICTの効果的な活用に取り組む。 ・体験学習を取り入れる事で、課題を見つけ設定したり、見通しをもって解決するための方策を考えたり、意欲的に学びの探求を楽しむ授業の開発に取り組む。	・自分の思ったこと考えたことなどを進んで書き留める活動も入れる。その際、ICTを活用しても良い。	・自分の興味・関心のあることは、進んで発表したり、教師に対して問いかけたりする姿が増えた。 ・子ども同士のつながりで考えを広げる対話力が弱い。 ・ICTを活用して、導入で引きつけたり、楽しい活動を行ったりした。 ・体験活動が、体験だけで終わってしまい、学習につなげることができなかった。	・問いをつないだり、会話の中で児童が調べたいという意欲を引き出したり、教師の「待つ」姿勢を大事にする。 ・単元のゴール設定を工夫し、見通しをもたせた授業づくりを行う。 ・体験が教育課程に位置づけられるような工夫や計画が必要である。 ・与えられたプリントではなく、自分でプリントを選んで問題を解く機会をつくることで、学習意欲を高める。そのために、プリントと解答を過去の学年分用意しておく。 ・学習規律を全学年統一して整える。